

久慈拓陽支援学校

研究テーマ

「一人一人の可能性を伸ばす授業づくり～各教科等を合わせた指導と各教科等との『つながり』を意識した取組を通して～」(3年次研究：1年目)

1 全体研究

(1) 研究主題設定の理由

前研究の課題として、授業づくりにおける「教科間のつながり」や「学部・学年間のつながり」が具体的に検討されていなかったことが挙げられたため、本研究主題を設定した。

「教科間のつながり」については、各教科等を合わせた指導の授業づくりの中で、各教科等の指導内容を具体的に取り上げて検討することにより、指導目標や内容を明確にした教育活動の改善を目指す。また、「学部・学年間のつながり」については、各学習グループでの取り組みを比較・検討し、学部や寄宿舎で共有することにより、系統立てた教育活動への意識を高めることを目指す。

1年次は授業グループを研究グループとして位置づけ、小学部は生活単元学習、中学部と高等部は作業学習を対象に取り上げた。各教科等とのつながりを意識した授業計画から目標立て、内容や手立て等の検討と実践、学習評価といった一連の授業づくりを通して、研修を兼ねた研究とした。

(2) 研究の目的

一人一人の可能性を伸ばす教育活動を目指し、各教科等を合わせた指導の授業づくりの中で学習指導要領の各教科等の指導内容を具体的に取り上げ「教科間のつながり」を検討することで、教育活動の改善を図る。さらに、学年・学部間で実践を共有し、系統的な学習活動への意識を高める。

2 研究方法

研究グループは授業メンバーで構成する。単元・題材シートと個別の評価シートを使用し、グループごとに授業計画を立て、実践する。その際、授業計画にあたり、教科等とのつながりをグループで確認する。単元・題材終了後には三観点での評価(単元・題材、個別)を検討する。研究対象の単元・題材や児童生徒は各グループで設定する。

3 各学部研究

(1) 小学部

小学部は生活単元学習を取り上げ、前期は低学団「たなばた会をしよう」、高学団「修学旅行に行こう!」、後期は両学団ともに「クリスマス会をしよう」を対象授業に設定し、授業検討と個別の学習評価検討を行った。生活単元学習と各教科とのつながりを確認したり意識したりすることができた一方で、学習内容と教科の内容をどのように関連付けるかといった課題が見られた。

(2) 中学部

作業学習を研究対象とした。紙工班、木工班ともに「後期校内実習」の単元を取り上げ、国語・数学とのつながりについて検討し、国語・数学の授業と関連させた実践を行った。職員間で情報共有しながら教科とのつながりを意識することで学習が深められた一方で、各教科等を合わせた指導は作業学習に限らないため、内容や取り組み時期について整理が必要といった課題が見えてきた。

(3) 高等部

作業学習を研究対象とした。1単元の授業について活動内容に該当する教科を確認する活動を行った。また、国語・数学に絞って学習内容を確認することで教科とのつながりを意識した実践を行い、教科の内容を学習に関連づけることができた。課題としては、国語・数学以外の教科との関連を意識することができなかったという意見があり、国語・数学以外の他教科との関連の確認不足が明確となった。

4 講演会

(1) 期日：令和5年7月26日(水)

演題：「楽しく・やりがいのある学校生活に！
～通常の教育の現状や障害疑似体験等も踏まえながら～」

講師：植草学園短期大学 佐藤 慎二 氏

参加者：約45名

(2) 期日：令和5年12月25日(月)

演題：「自閉スペクトラム症の特性理解と支援」

講師：NPO法人 夢 前田 淳裕 氏

参加者：約60名